

سري

シリア人の国境を越える移動に関する意識と経験

高岡豊・浜中新吾

「中東諸国家運営メカニズムの普遍性と特殊性」
第2回研究会報告(2008年11月2日)

سري

本研究の課題

- <リサーチ・クエスチョン>
- シリア人は国境を越える移動をどのように認識しているのか？
- 移動=行った先で一定以上の期間生活すること
- 実際に移動する人々はどのような動機・要因に基づいて目的地を選択しているのか？

- <なぜこのテーマを研究するのか>
- 「テロリスト」の移動やイラク難民・避難民の存在という懸念を、移動という視点で位置づけられる
- 社会全体の傾向を推測できるような形で、移動の当事者(希望者含む)に直接意見を聴取した研究が乏しいこと

سري

方法と問題点の絞り込み

- <研究方法>
- 社会調査の回答結果から移動する人々の属性を割り出す
- (誰が移動するのか？)
- 移動先・移動希望先を決定づける要因を探り出す
- (なぜ・どこへ移動するのか？)

- <先行研究>
- 労働移動の理論
 - 需給ギャップ理論とネットワーク理論
- シリア人の移動の実態
 - 労働移動、留学、ネットワークを介した情報、移動者のタイプ

سري

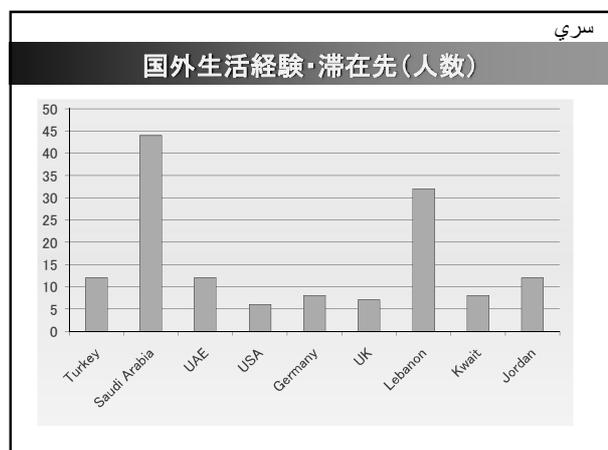
単純集計：国外生活の経験者

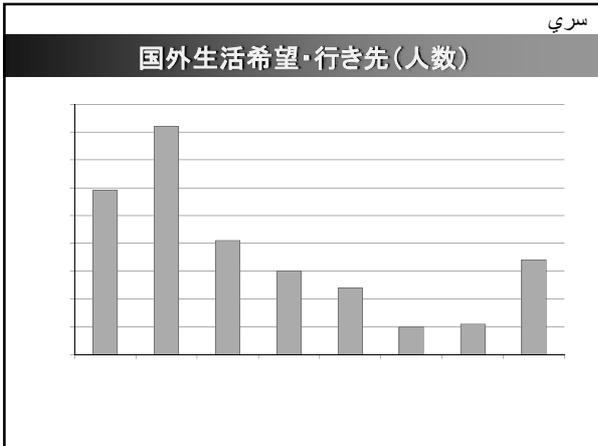
- 6か月以上の国外生活経験があるのは、全サンプルの2割程度である
- 男性の24.1%、女性の15.7%が経験者で、やや男性の方が多い
- 出身地別だとダマスカス県が突出(28%)
- 年齢層別だと37歳以上60歳以下で33~38%の人々に国外生活経験がある
- 世帯主の26.6%、既婚者の26.7%、一家の主な稼ぎ手の30%が国外生活を経験

سري

単純集計：国外生活の希望者

- 6か月以上の国外生活を希望しているのは、全サンプルの37.8%
- 男性の41.9%、女性の32.8%が国外生活を希望しており、やはり男性の方が多い
- 18~24歳の若年層で希望者が42.5%ともっとも多くなり、年齢層が上がると希望者は減っていく
- 家族内だと国外生活を希望するのは被扶養者、未婚者、主要な稼ぎ手でない人に多くなる





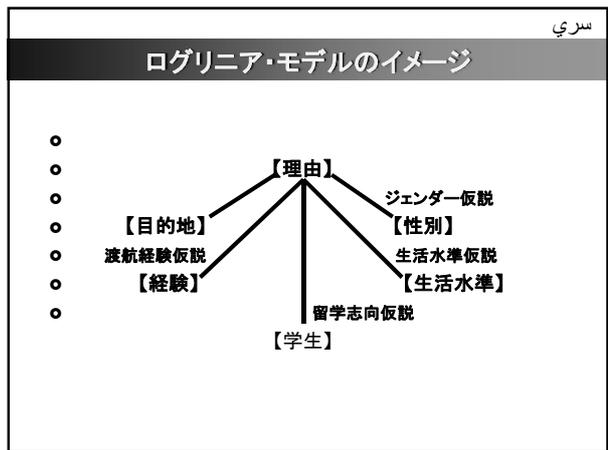
سري

国外生活希望・行先と理由のクロス表(人数)

	アラブ首長国連邦	ドイツ	サウジアラビア	フランス	米国
(1)高収入	69	24	33	6	11
(2)自分の能力を発揮し、高める機会があるから	52	9	30	6	2
(3)家族・親戚がいる	19	4	24	2	2
(4)文化が自分の国と似ているから	8	25	1	21	10
(5)その他の理由	6	9	1	11	14
合計	80	62	22	58	22

(注) 数字は左端が第一希望、中央が第二希望、右端が第三希望

- سري
- ### 国境を越える移動を説明する
- 先行研究より導出された仮説
 - (a) ジェンダー仮説
 - 性別の違いが渡航理由に違いをもたらす
 - (b) 渡航経験仮説
 - 過去の渡航経験により作られたネットワークが要因に影響
 - (c) 留学志向仮説
 - 学生の場合、留学を志向
 - (d) 生活水準仮説
 - 主観的な暮らし向きの評価が渡航理由に影響



سري

ログリニア・モデルの結果

Model	G2	df	p	AIC	BIC
①【経験-学生】【理由-性別】【目的地-理由】【目的地-学生】【理由-学生】	56.540	47	0.161	-37.46	-63.03
②【理由-性別】【目的地-理由】【理由-生活水準】【経験-生活水準】	46.418	50	0.618	-53.58	-80.79
③【目的地-性別-学生-生活水準】【理由-性別】【目的地-理由】【理由-学生】	28.895	26	0.316	-23.11	-37.25
④【経験-目的地-理由-生活水準】【理由-生活水準-学生】【目的地-生活水準-学生】【経験-理由-学生】【目的地-理由-学生】	14.256	17	0.649	-19.74	-28.99

↑ モデル②が採択

0.05未満のモデルは無い

- سري
- ### ログリニア・モデルの解釈
- ジェンダー仮説は適合
 - トルコ・エジプト・モロッコと同様
 - 渡航経験仮説は検出されず
 - 「おわりに」で考察する
 - 留学志向仮説は棄却
 - 生活水準仮説も適合
 - 生活水準が低いなら海外に雇用の機会を
 - 生活水準が高いなら雇用ならびに能力発揮の機会を求める